

## 第2学年3組 美術科学習指導案

平成24年12月6日(木)5校時

授業者 松田 淳

場所 高津中学校美術室

1 題材 「生活を彩るデザイン ～椅子のデザインを味わう～」(全1時間)「B鑑賞」

### 2 題材の目標

生活を豊かにするデザインに興味をもち、材料や形などの特徴や印象から椅子の機能性と美しさの調和に気づき、デザインのよさを味わうことを通して、優れたデザインの作品の価値を判断していく力を育てる。

### 3 題材設定の理由

○本題材は、4つのデザインの椅子を鑑賞し、作品についての仲間との対話を通して見方や感じ方を深め、批評し合いながら、機能性と美しさの調和によるデザインのよさを味わう活動である。

学習指導要領では、内容のB鑑賞(1)「美術作品などのよさや美しさを感じとり味わう活動を通して、鑑賞に関する次の事項を指導する。ア造形的なよさや美しさ、作者の心情や意図と創造的な表現の工夫、目的や機能との調和のとれた洗練された美しさなどを感じ取り見方を深め、作品などに対する自分の価値意識をもって批評し合うなどして、美意識を高め幅広く味わうこと。」にあたるものである。2年生のこの時期には、洋服やバッグ、文房具などの自分の持ち物を自分で選ぶようになっている生徒がほとんどであり、オシャレなものを使いたいという気持ちを強くもち始める時期であると考えられる。その時期に、自分たちの生活と関係するもののデザインを味わい、生活と美術との関わりを学ぶ意義は大きいと考えた。そこで、誰もが日常生活の中で頻繁に使い、色、形、材料、用途などの視点から多様なデザインが存在するものを扱いたいと考えた。また、椅子の使いやすさは、基本的には「座りやすさ」であり、椅子と自分の体だけで使いやすさを確かめることができるためその場で簡単に使ってみて、使いやすさを味わうことができる。実際に授業の中で、使いやすさを確認したうえでデザインを考えることができる意義は大きいと考え、椅子を鑑賞することにした。

この題材では、4つのデザインの椅子を鑑賞する。一つ目に見せるハンス・ヨルゲンセン・ウェグナーのYチェアは、木材で作られており、曲線が美しく温かみを感じるデザインである。ペーパーコードによって作られた座面の座り心地は柔らかく、長時間くつろぐことのできるものである。二つ目には、チャールズ・イームズ、レイ・イームズのデザインのサイドチェア(スタッキングベース)を見せる。この椅子は、座面は強化プラスチックで、脚は金属でつくられている。生徒も目にしたことのあるスタジアムチェアのプロトタイプでもあり、大量生産を想定してデザインされており、隣とつなぎ並べることも、積み重ねて収納することも可能なスタッキングベースとなっていることが特徴である。しかし大量生産を想定したデザインでありながら、座面の形状は人間の体に沿った形でデザインされており、尻が包み込まれるような座り心地のよさがあるデザインとなっている。三つ目は柳宋理のデザインしたバタフライスツールである。2枚の成形合板をボルトでつなぎ合わせたシンプルな構造でありながら、斬新で非常に美しい形となっている。また他の3つのチェアと比べて機能面で大きく異なる「スツール」であるため、座りやすさだけでなく、持ち運びやコンパクトなサイズなどの視点から使いやすさを比較してデザインを味わうことができると考える。最後に見せるのは、教室で普段生徒が使っている椅子である。デザイナーなどは不明であるが、ふだん使い慣れている教室の椅子は、長時間座ることができ、高さも変えられるなど機能面で大変優れたアノニマスデザインといえる。4点の作品は、形、材料や座り方に違いがある。それらの違いが、機能と美しさの調和について気

づかせるのに有効であると考えた。

また、どの生徒も普通の生活で、学校や家庭で椅子に座る機会が多い。家では食卓の椅子、勉強机の椅子、リビングのソファ、和室の座椅子、学校では教室の椅子、移動する時には車や電車、自転車などの椅子というように、どの生徒も生活の中で様々なデザインの椅子を使っている。しかし、椅子を自分で選んで購入するような経験はあまりないと考えられることなどから、日常的に使っているものではあっても椅子のデザインについて深く考えた経験はないと思われる。本題材で、教室の椅子以外は生徒たちにとってはおそらく初めて目にするものであろうと考えている。色や形、材料、用途などの異なるデザインの椅子を並べて鑑賞することによって、生徒たちは改めて椅子のデザインの多様性に気付くと予想される。椅子について、機能と美しさとの調和を考えながら価値について仲間との対話を行い、デザインの良さを味わうことで、生活の中での自己の美的判断力を高めていくことにつがっていくと考えた。

○〈生徒観は個人情報のため省略〉

○この授業では、授業者が一方向的にそれぞれの椅子のよさを伝えるのではなく、生徒が意見を出し合いながら学級全体のグループ集団としてデザインの良さに気付いていく流れにしたい。集団として作品のよさなどを批評し合いながら、最終的に個人個人がそれぞれの椅子のデザインに対する価値判断ができるようにすすめていきたいと考える。

導入で、既習の知識の確認としてデザインとは何かを確認し、デザインは見た目の美しさだけでなく、使いやすさも兼ね備えていなければならないことをおさえる。そして、デザインの作品であるため、見るだけではなく実際に座ることで鑑賞ができるようにする。座り心地を確かめたうえで、機能と美しさの調和について考え、良さを味わわせたい。

全員が全ての椅子に座った後は、ワークシートにそれぞれの椅子について自分なりに感じたことや考えたことを記入する。そしてそこに書いたことをもとに学級全体でそれぞれの椅子について意見を出し合う。そうして自分の考えをまとめて伝え合うことで、他者の多様な価値にふれ、さらに深く作品の良さを味わうことができると考える。教師からの価値の押しつけではなく話し合いから出た意見をもとに考えさせることで、自分で美しさと機能の調和に気付き、優れた椅子のデザインの価値を判断することができるようにする。4点の椅子は、デザインの優れた部分も多分にあるが、美しさや機能の面で、生徒にとっては使いにくかったり美しく感じられなかったりすることもあるのではないかと考えられる。目に見える表面上の美しさだけでなく、自分の生活と結びつけることのできるような声掛けなどにより、機能と美とのバランスを考えて生徒同士でそれぞれの作品を批評し合うことができるように授業者が話し合いをファシリテートしていく。さらに、生徒が発表した意見をもとに、なぜそのような形、色、材料、使い方などにしたのかデザイナーの思いを考えることにより、作品の価値のさらに深い部分に迫ることができるよう話し合いをすすめていきたい。

そして発表をもとにした話し合いを行った後に、自分が持ち帰りたい椅子を選ぶ。持ち帰りたい椅子を選ぶにあたっては、形や色の美しさのみでなく家や部屋との調和を考慮することが予想される。また機能面でも、個人の生活スタイルや置く場所のスペースまでも想像することが可能である。そしてそこから、椅子に限らず全ての優れたデザインに共通する、美しさと機能の調和に気付き、作品の価値判断ができる力を身につけさせたい。最後にこの時間の椅子の鑑賞を通して考えた、「優れたデザインとは何か」を自分の言葉でまとめることにより、機能と美しさの調和が重要であることを学ばせたい。

#### 4 教材

- ① 「Y チェア」 ハンス・ヨルゲンセン・ウェグナー
- ② 「サイドチェア」 チャールズ・イームズ レイ・イームズ
- ③ 「バタフライスツール」 柳宋理
- ④ 教室の学習椅子

準備物：椅子、ワークシート

5 題材の評価規準

ア 美術への関心・意欲・態度	イ 鑑賞の能力
【関①】生活を豊かにするデザインに関心をもち、機能や見た目などから椅子のデザインについて思ったことや考えたことを伝えたりワークシートにまとめたり、友達の意見に耳を傾けようとしたりしてデザインの良さを主体的に感じ取ろうとしている。	【鑑①】4つのデザインの椅子から、機能と美しさの調和に気付き、デザインの良さを味わうことで自分の中にそれぞれの作品に対する価値をもつことができる。

6 本時の学習指導(全 1 時間)

(1) ねらい

生活を豊かにするデザインに興味をもち、材料や形などの特徴や印象から椅子の機能性と美しさの調和に気付き、デザインのよさを味わうことを通して、優れたデザインの作品の価値を判断していく力を育てる。

(2) 展 開

時間	◆学習活動・予想される生徒の反応	教師の支援	評価【評価方法】
	<p>◆デザインとは何かを確認する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的(伝達・使用)のあるものをつくる。</li> <li>・使うものをつくる。</li> </ul> <p>◆4つの椅子について、自分で見て、座って鑑賞をする。</p> <p>◆4つの椅子について、色・形・材料・使いやすさ・その他の観点から自分の感じたことや考えたことをワークシートに記入する。 (①Yチェア②サイドチェア③バタフライスツール④教室)</p> <p>●色について ①自然の木の色、温かい感じの色</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの題材をふりかえり、純粋美術と応用美術の違いを振り返らせる。</li> <li>・本時は椅子の鑑賞を行い、優れたデザインとはどのようなデザインなのかを考える時間であることを伝える。</li> <li>・座席の列順に教室を1周回って座ることができるよう、4か所に置いておく。</li> <li>・見た目だけでなく、座り心地など機能面にも注目するよう促す。</li> <li>・人が座っている感じも見るよう助言する。</li> <li>・それぞれの椅子を比較するなどして、感じたことワークシートに記入させることで自分なりの考えをもつことができるようにする。</li> </ul>	

<p>②カラフル、ポップな感じ、安っぽい  ③渋い色、汚い色、大人っぽい色  ④冷たい感じの色、工夫がない色</p> <p>●形について  ①曲線がかっこいい、背もたれがYみたい  ②シンプル、球場の椅子みたい、かわいい  ③蝶々みたい、手を合わせた形、変わっている、背もたれがない  ④普通で工夫がない</p> <p>●材料について  ①木、木を曲げている、座面はひも  ②プラスチック、傷がある、金属の脚  ③木、合板、金属の棒  ④木、合板、金属</p> <p>●使いやすさについて  ①座りやすい→ひもが柔らかい、肘掛がある  ②深い感じ、リラックスできる、冷たい  ③不安定、意外と座りやすい、背もたれがないので疲れそう  ④ずっと座っても疲れな、勉強するには姿勢がよくなる 高さを変えられる</p> <p>●その他  ①値段が高そう、手づくりっぽい  ②重ねられる、つなげられる  ③どうやってつくったのか？  ④一番頑丈かも</p> <p>◆それぞれの椅子について学級全員で自分が感じたことや考えたことを発表し合い、他者の考えを聞き、より深く椅子のデザインを味わう。</p> <p>◆自分の持ち帰りたい椅子を選び、理由とともにワークシートに記入する。  ・サイドチェアもどこか温かみのあるデザインだと思う</p>	<p>・書きにくいようであれば、それぞれの観点で例をあげる。</p> <p>・見てすぐにわかることでも、想像したり考えたりしたことでも、疑問に思ったことでもよいことを伝え、幅広い意見が出るようにする。</p> <p>・4脚の椅子を前に並べて置く  ・感じたことについては、根拠を問い、考えを深められるようにする。  ・事実と感覚を区別して整理しながら話し合いをすすめる。  ・デザイナーの思いにふれる意見があれば積極的に取り上げ、広げる。</p> <p>・持ち帰りたい椅子を選ぶ際には、生活の中でどう使うかを考えさせ、自分にとってのそれぞれ</p>	<p>【関①】(行動観察・発言・ワークシート)</p>
---	--	-----------------------------

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使いにくそうだが、バタフライスツールの形がやっぱりカッコいい</li> <li>・Yチェアに家族みんなが座ってゆっくり食事ができたら、会話もはずむ気がする</li> <li>・見た目の変わったデザイナーの椅子よりも、使うことにしっかりこだわった教室の椅子が好きだ</li> </ul> <p>◆優れたデザインとは何かを自分なりに考えをまとめてワークシートに記入する</p>	<p>椅子の機能と美しさを考えさせるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正解を予想して書くのではなく、本時の授業をふりかえって自分の考えを書くようにする。</li> <li>・まとめられない生徒には授業を通して考えたことを書くよう促す。</li> </ul>	<p>【鑑①】（発言・ワークシート）</p>
--	--	--	------------------------

### (3) 評価

観点	十分満足できると判断される生徒の具体例	おおむね満足できると判断される生徒の具体例	支援を要すると判断される生徒への手立て
美術への関心・意欲・態度	生活を豊かにするデザインに興味をもって作品を鑑賞し、自分の思いを伝え、他者の考えを聞きながら考えを深め、作品のよさを味わい、他の椅子の作品と比べたり他の製品のデザインと比べたりするなどして、自分なりに作品の価値づけをしようとしている。	デザインとしてのよさに気付くよう興味をもって作品を鑑賞し、自分の思いを伝え、他者の考えを聞きながら作品のよさを味わおうとしている。	見た目だけでなく、生活の中で使うことも考えさせながら、他者の考えを聞き、自分も作品のよさに気付こうとする気持ちをもたせる。
鑑賞の能力	機能と美しさの調和に気づき、自分なりの価値意識をもって批評し、他者の考えから自分の考えを深めるなどして、他の椅子と比べたり他の製品のデザインと比べたりするなどして、椅子のデザインを幅広く味わっている。	機能と美しさの調和に気づき、他者の考えから自分の考えを深めるなどして、椅子のデザインを自分なりに味わっている。	優れたデザインは、美しいだけあるいは使いやすいだけではないことをおさえて、考えさせる。